

良好な人間関係を基盤とした安心できる学級集団を育成するための 心の教育総合プラン

—子どもの表現する力を培い、互いを認め尊重し合う実践を通して—

専攻 教育実践高度化専攻
コース 心の教育実践コース
学籍番号 P08036A
氏名 垣内 志織

1. 良好な人間関係を基盤とした安心できる学級集団を育成する意義

学校現場ではいじめや学級崩壊など、子どもと学校をめぐる様々な事柄は深刻であり、それは存在の危機にまで及んでいる。子どもだけでなく教師たちにとっても、心から安心できる居場所が学校から失われつつあると感じる。

学校は何か「できる」・「わかる」ようになるだけでなく、子どもたちが自分の存在を確認でき、安心して過ごすことができる場所でなければならない。もしも安心できない学級だとすると、子どもたちにどのような影響を及ぼすだろうか。学校に通うことができなくなる、心のエネルギーがたまらない、不安でつぶされそうになる、やる気や意欲の消失、さみしさや悲しみなど心の叫びをため込んでしまう、などが考えられる。これらの状態が継続してしまうと、いじめや不登校、学級崩壊などの問題事象につながる可能性もある。そうならないためにも、安心できる学級集団を築く必要がある。

山中(2009)は、学級の基盤は教師と子ども、子ども同士の2つの人間関係にあると述べており、そのことから、学級内で良好な人間関係を築くことによって、安心できる学級集団を育成することができる。本プランでは、良好な人間関係を基盤とした安心できる学級を「いじめ・仲間はずれといった相手の中傷するような問題が無く、自分の思いを表現することができ、子ども同士が互いの存在や考え方を認め、尊重する学級」と考える。

2. 安心できる学級集団を育成するための必要な取り組み

良好な人間関係を基盤とした安心できる学級集団を育成するためには、「自分なりの考えを持ち、表現する力を培う」と共に、「子ども同士が互いを認め、尊重する学級を築く」ことが重要だと考える。心の教育実地研究Ⅱでは、これらの2点を柱に授業を考案し、実践した。

(1)安心できる学級集団を育成するための授業実践

Table1 3回の授業の概要

第1回	道徳	「友だちってなんだろう？」 ■ 友だちに対して自分なりの考えを深める ■ 仲良しグループにはプラス面とマイナス面があることを理解させる ■ 心の中で思っていることと行動にはズレが生じる場合があることに気づかせる
第2回	特別活動	「同調という心のメカニズムについて知ろう」 ■ 「同調」という心のメカニズムについて理解させる ■ 自分が正しいと思ったことを表現することの大切さに気づかせる
第3回	特別活動	「表現してみよう」 ■ 表現の仕方はいろいろあることに気づかせる ■ ロールプレイングを通して思いを表現しようとする態度を育てる

まず、道徳の時間では、具体的な状況に即して内面的な葛藤などを体験させ、道徳的価値の自覚を深めていく。考案した授業では、自分なりの友だち観を持つこと、そして「友だち」について考えを深めることを大切にしていける。そして、特別活動の授業では、ロールプレイングなど社会的スキルを身につけるための活動を効果的に取り入れ、子どもたちが現実の生活の中で自主的、実践的に良好な人間関係を築こうとする態度を育みたいと考える。

(2)安心できる学級集団を育成するための学級経営

心の教育実地研究Ⅱでは、改めて学級経営の日々の取り組みの大切さを実感し、より有効的な実践プランを構築するため、学級経営の取り組みを新たに考案した。この取り組みを、授業と関連させながら継続的に実施していくことで、より子どもたちの力を伸ばすことができ、安心できる学級集団の育成につながると考える。

Table2 学級経営の取り組みの概要

<p>学級目標を活用した取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学級目標に向けて自分の目標を決めさせることで、目標に対しての行動が明確になる。 ● クラスで問題が生じた時に学級目標を基にみんなで考え、課題を乗り越えていく。
<p>『いろいろ にじいろ ノート』を用いた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ノートを通して毎日やりとりすることで、教師と子ども間の信頼関係を築くことができる。 ● 子どもたちが心の中で思ったことを何でも綴ることができ、自分の思いを受けとめてもらえる経験から安心感が生まれ、表現しようとする意欲が育まれる。
<p>『いろいろ にじいろ 広場』を用いた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学級集団の中において、自分の伝えたい思いを表現しようとする態度を育む。 ● 学級のみんで考えたことや伝え合ったことを教室に目に見える形で残していくことで、表現し合い、互いを認め合うことが、学級の成長や変化につながっていることに気づかせる。

4. 心の教育総合プランに向けて

今回は、学級経営の取り組み、道徳および特別活動の授業を中心に実践プランを考案した。キャリア教育分野ならびに教育相談分野からのアプローチの可能性についてはここで言及していきたい。

キャリア教育分野からは、人間関係形成能力を育むアプローチを行いたいと考える。具体的なアプローチとして、あまり話したことの無い友だちや地域の方、ゲストティーチャーの方など、様々な人と出会い、かかわり合う取り組みを通して人間関係形成能力を育みたいと考える。

教育相談分野からのアプローチとしては、子どもの思いを聞く際にカウンセリングの知見を活かしたいと考える。子どもの思いに耳を傾け、その子どもの存在価値を認め、成長を支えていこうという教師の姿勢によって、子どもに安心感を与えることができると考える。

さいごに、大学教員と現職教員と共に、本プランで考案した授業や取り組みの妥当性ならびに実践可能性を高めるための検討を行った。その討議によって明らかとなった改善点を熟考し、更なる改善を行っていく。また、子どもたちや教師にとってより価値のある実践プランになるよう、今後もこのようなプロセスを積み重ねていくことの重要性を感じた。

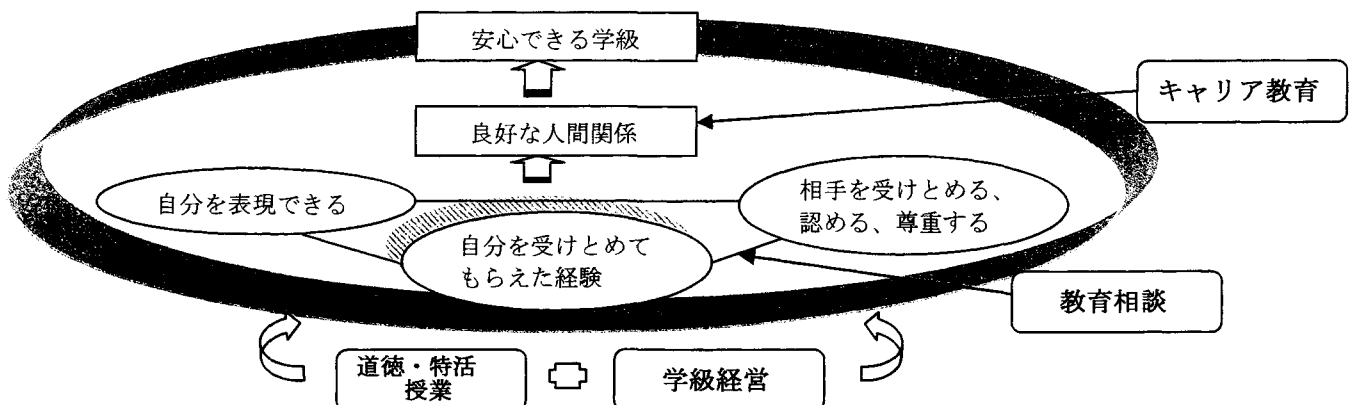


Fig.1 心の教育総合プランの概要

修学指導教員 渡邊 満
指導教員 山中 一英